

Library Navigator

Special Feature 1

大学図書館と学びのコミュニティ

Special Feature 2

読書のススメ
～新入生に贈るお薦めの一冊～

Special Feature 3

図書館紹介

CONTENTS

- P.2 [連載1] 図書館長からのメッセージ ～新入生に贈る言葉
- P.3 [特集1] 大学図書館と学びのコミュニティ
- P.6 [特集2] 読書のススメ～新入生に贈るお薦めの一冊～
- P.10 [特集3] 図書館紹介
- P.13 [連載2] 大学生のうちに読んでおいてほしい本
- P.14 [連載3] 院生プレゼント「私の研究と図書館」
- P.15 Information

白川静文庫
スポーツ健康科学部の図書・雑誌の充実
ライフサイエンス・アカデミックラウンジ開設

立命館大学
図書館だより

2010.3
109

図書館長からのメッセージ 新入生に贈る言葉

新入生の皆さん、 入学おめでとうございます。

皆さんは、幼稚園以来、小学校、中学校、高校と、長い学習を経て大学に入学しました。大学は、教育課程の最後の段階に位置する最高学府です。大学を卒業すれば、社会に出るわけですから、大学ではさまざまな力を身につける必要があります。一番大事なことは、「教えられること」から「学ぶこと」への転換です。「学ぶ」という場合、一人で学ぶだけでなく、学生相互の学び合いが大事です。大学は、「学びのコミュニティ」なのです。

「学びのコミュニティ」の中心に位置するのが図書館です。図書館は、大学の心臓であり、顔でもあります。現在、立命館大学は、蔵書275万冊を擁し、全国有数の規模を誇っています。110年にも亘る先人の努力によって、人類の叡智の結晶である膨大な書物が蓄積されているのです。もとより、近年、情報機器やインターネットの発達により、電子ジャーナル、データベースなどの電子媒体が重要になっています。しかし、電子化が進め進むほど、膨大な情報の中から有用な情報を得る能力が必要になります。このような「リサーチ力」を獲得するためにも、やはり、学ぶことが必要です。

大学では、まだ講義で聴いていないような問題についてもレポートを書く機会があります。その場合、結局、自分で調べるしかありません。〈考え、調べ、読み、考え、書く〉という循環こそ、大学での「学びのスタイル」です。このようにして学び続ける力と態度を涵養しておけば、激変する知識社会の中で生き抜いていくことが可能となるでしょう。ぜひ、学習の拠点である図書館で、このような力を獲得して下さい。「大学には図書館がある。さあ、図書館へ行こう!」これが私からのメッセージです。

法学部 教授 立命館大学図書館長 吉田 美喜夫



大学図書館と学びのコミュニティ

いま、立命館大学図書館は大きく変わろうとしています。学習者中心の「学びのコミュニティ」にふさわしい、学びが見える、学びに触れる、学び合える「ラーニング・コモンズ」を目指しています。109号では「学習図書館分科会」メンバーである石井秀則教学部長に、今後の図書館の方向性を中心に、「大学における学び」について語っていただきました。

① 学びのコミュニティにおける主体的な学び

私が大学に入学したのは今から40年近く前のことです。新入生の春に、大学の図書館で朝永先生の量子力学の本を熱心に読んでいた自分の姿が脳裏に浮かんできます。図書館は単に情報を収集する場に留まらず、勉学の間であり、居心地の良い居場所であったと記憶しています。また、数人の仲間と学内のプレハブ小屋で、自主ゼミを行ったり、大学近くの喫茶店で遅くまで、数学の議論をやっていたことが思い出されます。仲間は1回生のクラスの仲間を中心に自然と形成されたグループで、彼らとのさまざまな営為の中で、自分の目指す方向が見えてきました。それで、仲間との出会いが現在の自分を作ったと、今でも仲間との出会いに感謝しています。もちろん、大学での先生との出会いも自分の人生には大きな影響を与えています。当時、我々の自主ゼミの相手をしてくださった教授がおられました。私自身、その先生のご専門に近い分野の専門家になったのは、20歳前に、その先生との出会いがあったからと言えるかもしれません。

さて、冒頭に長々と自分のことを書かせて頂きましたが、言いたいことは、「仲間とともに主体的に学ぶ」ことの大切さです。立命館大学では初年次の学びとして、基礎演習などの1回生小集団教育の充実に力を入れてきました。それは、個々の学生諸君が大学での主体的な学び方をしっかりと身につけるためであると同時に、仲間を作り、仲間とともに成長してほしいからです。

「入学時」においては、「高校から大学へ」とスムーズに移行していくための初年次教育が決定的に重要です。高校までとは異なる大学における「学び方を学ぶ」（多様なアカデミックリテラシー教育や討論・プレゼンテーションといったコミュニケーション力量の養成など）ことが大切となります。さらに、「自ら探究心をもって学ぶ」ことへと学習方法を変化させていく新しい「学びの習慣」を身につけると同時に、学生同士が「相互に学び合う」ことによる学びの深化と喜びを実感していくことが、この時期の重要な課題となっています。オリター・エンターがクラスに入り、先輩・後輩という縦の関係の中で、立命館大学の到達点・各学部の伝統が継承されています。また、課外・自主活動において、学部の枠、学年の枠を越えたさまざまな「学び」が実現しています。そして、それぞれに立命館の伝統が伝わっていて、その上に立って、さらなる高度化が目指されています。それらすべてが「立命館の学びのコミュニティ」と言えるでしょう。その学びのコミュニティの中で、学生諸君が仲間と出会い、仲間とともに主体的に学び、大きく成長を遂げられることを願っています。



石井 秀則 教学部長

② 学びのコミュニティの中で培われる力

「立命館憲章」は、「建学の精神（自由と清新）と教学理念（平和と民主主義）」に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍でき

る人間」の育成に努めると高らかに宣言しています。地球社会と日本が転換期にあるからこそ、こうした「地球市民」が求められているのです。すなわち、立命館は未来を生み出す学生の学びと成長を実現することを使命として

大学図書館と学びのコミュニティ

いるのです。また、立命館学園は2020年にむけて、学園がめざすビジョンとして、

Creating a Future Beyond Borders

自分を超越る、未来をつくる。

を掲げています。個々人の中にある境界をも超えて、未来を切り拓く人材育成と学術研究に取り組む学園の決意を表しています。学生諸君が自らの限界を超えて、力を発揮し、社会に貢献する。そのための鍵は、常に社会の中に自分を置いて、社会との関係の中で、力を発揮することにあると思います。立命館大学の卒業生は、単に勉強ができるだけでなく、社会というコミュニティの中で、仲間と協力し、正しい方向に向かって、甚大な力を発揮する。

それが、立命館憲章の「正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間」です。そのような力の源が立命館大学の学びのコミュニティにおいて、培われていると確信しています。



3 学びのコミュニティを支える図書館機能

このような学びのコミュニティのさらなる実質化という観点から、図書館の機能を強化する検討を一昨年来、人文・社系（衣笠）新展開調査検討委員会学習図書館分科会でおこなってきました。この委員会は衣笠キャンパスを念頭においた検討をおこなったのですが、今後の具体化政策では、BKCも含めて、実現したいと思っています。

急速なネットワークの普及とデジタルコンテンツが拡大し、学生のネットワークへの志向の変化と図書館資料のデジタル化に伴い、図書館入館者数あるいは貸出冊数の減少など図書館の役割の変化に問題意識が生まれました。こうした流れを受けて、主に北米の大学図書館を中心に、「インフォメーション・コモンズ」などのモデルが提示されました。「コモンズ」とは、共有地、共有資源あるいは公共の場を意味しており、「インフォメーション・コモンズ」は、デジタル時代の情報資源を利用するための公共の場であり、利用者が寄り合う場として誕生しました。導入後は、従来の館内での飲食禁止や静かな場所であることから方向転換し、話し合いもでき、図書館の所蔵資料や電子資料だけではなく、人的資源も共有できる公共の場としての機能を果たし、入館者数を増加させるな

ど実績をあげています。

2005年に開催された第12回ACRL（Association of College and Research Libraries）全国会議にて、「インフォメーション・コモンズ」から「ラーニング・コモンズ」という新たな方向性が示されました。「ラーニング・コモンズ」への転換は、学部教育の新たなパラダイム転換、すなわち学習理論が『知識の伝達』から『知識の創出・自主的学習』への転換を意味するものであり、図書館は、授業で教員から教わるといった知識の理解を深めるための場所・資料を提供するのではなく、学生が主体的に問題解決を行い、自らの考えを発信するといった学習活動・スタイル全般を支援するための施設と学内機関と連携してサービス・機能を提供することが求められてきています。このような学習活動・スタイルの転換期にあるなかで、日本国内においても複数の大学で、図書館を「ラーニング・コモンズ」として整備する動きが活発化しつつあります。

「ラーニング・コモンズ」が目指すのは、①一方的に講義を聴く学習スタイルでは得ることができなかったこと、つまり学生の学習実態やニーズに合わせてワークショップやグループ活動などのコミュニケーションを通じた学

びあいを重視して、主体的に問題を解決していく方法を修得し、自らの考えを発信するといったアクティブな学習体験を得ること。②そのために学生のさまざまなニーズや学習スタイルに対応し、学生が相互に影響しあう場として、かつ大学全体の学力向上に資するよう図書館の機能・環境・体制・サービスを充実させていくこと。大学全体の学びを、これまでの受動的な学びから積極的・創造的・発信型の学びへと転換するための拠点として図書館に期待される役割は大きい。

今後は、学生の主体的学習を促進し、「学びのコミュニティ」形成に向けて学習環境を整備し、図書館の「ラーニング・コモンズ」としての機能充実をはかります。すなわち、「教育」から「学習」へのシフト転換により、図書館が新たな役割として「学習図書館」の観点から図書館改革を検討します。従来の学部に加え、生命科学・薬学から芸術・スポーツ分野まで幅広い教学分野をもつ総合大学として、小集団教育やピア・エデュケーションといった立命館の強みと立命館らしさを十二分に生かした中期的政策として「学習図書館」構築をめざします。そこでは、「学習者中心の大学」にふさわしい、利用者を中心とした学習空間と学習活動を設計し、学びが見える、学びに触れる、学びあえる「ラーニング・コモンズ」の立命モデルをめざします。

従来の「情報入手・検索の場」から「入手した情報を使って学習を形にする場」「学習成果を発信する場」としての図書館にふさわしい、学習支援体制や学習空間を提供します。図書館の有しているリソースを有効に活用することを前提に、学術情報（紙媒体・電子媒体）の活用、情報への自由なアクセスツール・機器の整備、学生が個人であるいはグループで学べる場にふさわしい空間と設備、恒常的な支援体制（ピアサポート・教職協働）、多様な学習活動（ワークショップ・ガイダンス）の展開、という機能を有機的に組み合わせ、エリアとしての立命版ラーニング・コモンズを構築し、図書館が立命館に相応しい学力、物の見方、考え方などを身につけることができる人材育成の場となるようにします。



④ 最後に

図書館を学びのコミュニティの中心的な場として、再構成する際に、重要なことは、図書館は同時に研究支援の拠点としての機能を保持することです。最先端の研究がそこで展開していることを学部学生が目当たりすること、それこそが大学の図書館の特長であり、学生にとって大きな学びの動機付けとなります。図書館の「ラーニング・コモンズ」としての機能充実にあたっては、それは同時に、「リサーチ・コモンズ」である必要があることを忘れてはいけません。学習と研究のコモンズである新たな図書館の確立のために、学生・院生・教職員の皆さんに、学びのコミュニティの実質化の観点から、積極的なご意見を頂けることを期待します。



読書のススメ

～新入生に贈るお薦めの一冊～

法学部

法学部 法学科 4回生 白石 万理さん

『戦後政治史 新版』

石川真澄 著 (岩波書店) 2004年

2009年8月30日の第45回総選挙は、歴史を塗り替える結果をもたらしました。大きな転換期を迎えた今だからこそ、これまでの政治を振り返ることが大切です。戦後日本政治の歴史的背景を知るとは、大学での学びで重要な「批判的」な視点を培うことにつながります。

戦後の日本政治について「どんなことがあったかをコンパクトに記録」したこの本には、政治を学ぶ上で欠かすことのできない基礎知識が凝縮されています。戦後の首相一覧や衆参両院の全選挙結果など重要なデータが充実している点も魅力です。戦後60年間の政治動向を概観する入門書として、また、専門的な学びを補う資料として、ぜひ長く活用してください。



産業社会学部

産業社会学部 現代社会学科 1回生 美馬 菜さん

『脳を活かす勉強法：奇跡の「強化学習」』

茂木 健一郎 著 (PHP研究所) 2007年

初めて図書館に入ったら、真っ先に目に入るのが読楽コーナーだと思う。私はこの本をそこで見つけた。著者の経験をはさみながら、うまく脳を使う方法が書かれており、かつ読みやすい。自分にもまだ見ぬ可能性が秘められているんだ! という希望がわいてくる。私たちは日々脳を使いながらも、使い方まで意識することはあまりないのではないだろうか。自分にとっても近い(むしろ自分自身?)脳を客観的にみることが難しい。脳は自分が思う以上に「知る」ことが好きであり、無理かもしれない課題に成功したときに喜ぶ。脳を喜ばせることができれば、こっちのものである。著者曰く、勉強とは自分を輝かせるためのもの。

一度読んでみるとよいと思います。



文学部

文学部 人文学科 2回生 吉村 遼さん

『カラマーゾフの兄弟』

ドストエフスキー 著/原 卓也 訳 (新潮社) 1978年

私は小説「カラマーゾフの兄弟」について紹介します。どうしてこの作品を紹介する気になったかという、数年前私はこの作品を通じて自分の生き方や行き詰っていた恋のことを考えられた気がするからです。この物語には人間としてより良い生き方を真剣に求める人達の姿が描かれています。物語はロシアのとある田舎町を舞台に、特異な事件によってそれぞれの人物が持っている課題を明らかにしていきます。

初めてこの小説を読んだ時身の内に震えるものを感じました。そしてこの物語は何かを問いかけているように思いました。皆さんもぜひ「カラマーゾフ」を手にとって読んでみてください。それぞれの人にそれぞれの問いかけを発見すると思います。



大学生になって最初の一冊は何を読めばいいでしょう？ 新入生のみなさんの疑問にお答えするために、各学部の先輩から新入生にお勧めしたい一冊を選んでいただきました。いずれの図書も立命館大学図書館に所蔵しています。大学生生活の最初の一步、学部の学習の最初の一步を、これらの図書を読んで踏み出してください。



国際関係学部

国際関係学部 国際関係学科 1回生 河野 弘暉さん

『緒方貞子：難民支援の現場から』

東野真 取材・構成 (集英社) 2003年

国際関係を学ぶ上で紛争の解決と平和について考える機会が多い。世界において紛争や内戦は途切れることなく継続され、多くの方が命を落としている。また近年ではテロの脅威も世界を騒がせている。この本は緒方貞子さんの足取りを辿ったドキュメンタリーである。4つの紛争と難民支援を通して、人の尊厳とその尊厳を守る本当の人道支援について考える。難しい言葉や歴史的背景も簡単に説明してくれているため非常に読みやすい。

原因も知らず相手を批判するだけでは争いの堂々巡りである。我々は平和な世界を実現するために、まず世界に目を向け、相互理解をすることが必要となる。難民支援の現場から平和の創造について考えていきましょう。



政策科学部

政策科学部 政策科学科 1回生 野崎 瞭香さん

『ザ・ディベート：自己責任時代の思考・表現技術』

茂木 秀昭 著 (筑摩書房) 2001年

新入生のみなさんご入学おめでとうございます。政策科学部へようこそ！ 政策科学部では、論理的思考、批判的思考、多角的視野が大事だと入学して1年間言われました。この3つを身につけるのに有効なのがディベートです。基礎演習などでも取り組むこととなりますが、私はかなり苦戦しました。そんなとき、少しでもディベートについてわかる本があればと思い、この本を紹介させていただきました。この本ではディベートのやり方だけでなく、日本的なものの言い方とディベートで有効な言い方の違いなどにも触れられていて興味深い内容です。悩んだとき、ぜひ読んでみて下さい。そして、論理的思考、批判的思考、多角的視野に磨きをかけてみてください！



映像学部

映像学部 映像学科 3回生 橋本 夏さん

『ブレードランナーの未来世紀』

町山 智浩 著 (洋泉社) 2006年

本書を読む前に、まずは本書で取り上げられている映画を、どれでもいいから見てください。「グレムリン」や「ターミネーター」などはTVで見た人が多いかもしれません。私のお勧めは、「未来世紀ブラジル」と「ブレードランナー」です。これらの映画を見た後、どう思うでしょうか。「おもしろかった。」「わけわかんなかった。」感想は人それぞれ。では、この本を読んでみましょう。そうすれば、おもしろかったものは更におもしろくなり、わけわからなかった映画の「わけ」がわかるようになります。タイトルどおり、<映画の見方>がわかる本なのです。

映画を学ぶということは、見た映画に疑問や興味を抱き、それについて自分なりに調べて考えることだと思えます。本書を読めば、映画をいろいろな角度から見るおもしろさがきっとわかるはずです。



*学生執筆者の学部および回生は、2010年3月時点の所属を示しています。

読書のススメ ～ 新入生に送るお薦めの一冊～

経済学部

経済学部 経済学科 4回生 片山 由衣さん

『すぐに活かせる「日経」の読み方』

日本経済新聞社 編 (日本経済新聞社) 2004年

「日本経済新聞」などの経済専門紙を読んだことはありますか？ その名の通り、日本の経済に特化した専門紙です。日々の産業情報を知っていれば、大学の講義もわかりやすく、将来の就職活動でも有益です。けれど何となく経済紙を見ても、普段新聞を読み慣れていなかったり、特に興味がない人にとって、継続して読むことは難しいかもしれません。新聞を要領よく読むちょっとしたコツを持ちましょう。そこで、今回オススメするのが本書、『すぐに活かせる「日経」の読み方』です。

本書は「こう読むべきだ!」という教科書ではなく、自分に合った読み方を見つけるための参考書なので、本書を一読した後に日本経済新聞に目を通すと、きっと以前より読みやすくなっていると感じるはずですよ。



経営学部

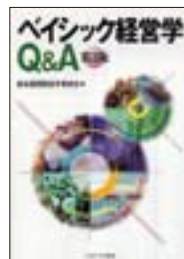
経営学部 経営学科 4回生 佐藤 健太郎さん

『ベシク経営学Q&A』

総合基礎経営学委員会 編 (ミネルヴァ書房) 2007年

この本を推薦する1番の理由としては、「1問1答形式で経営学の基本的な事柄を学べる」ということです。経営学部にとって、経営の専門的な言葉を知る、ということは大学生活で学ぶ上でとても重要なことです。

大学で講義を受ける上で先生の説明やレジュメの中で特に重要なポイントがどこであるかについて、より深く理解するために、この本が役に立つと思います。先にも書きましたが、1問1答形式なので知りたいことに対しダイレクトにアプローチすることができます。さらに言葉も優しく書かれているので、新入生の皆さんにも読みやすい一冊だと思います。経営学部に入學したからには1度は手に取って見てください。



理工学部

理工学部 マイクロ機械システム工学科 2回生 福田 佑介さん

『アカデミック・スキルズ: 大学生のための知的技法入門』

佐藤 望 編著 / 湯川 武、横山 千晶、近藤 明彦 著 (慶應義塾大学出版会) 2006年

1回生のみなさん入学おめでとうございます。みなさんはこれから大学で学んでいく中で、自ら課題設定をし、「自分の答え」を導き出すという能力が求められていきます。ここでいう“自分の答え”とは今までにないオリジナルな価値を生み出すということです。これは今までみなさんが受けてきた勉強とは性質が違うものです。本書は大学での勉強をどうやっていけばわからないというみなさんにとっての「道標」になってくれます。どのように情報を集め、咀嚼し、発信していくか、その基本的な技法の「道標」です。このプロセスを習得しておけば、学校生活、社会人となってからも他人より1歩抜きん出た「知」を生み出していけるでしょう。





情報理工学部 知能情報学科 4回生 出口 明広さん

情報理工学部

『情報って何だろう』

春木 良且 著 (岩波書店) 2004年

「情報」という言葉を初めて使ったのは、森鷗外だったと知っていますか？彼は「情報」を戦争という軍事的目的の言葉として公にしました。これが「情報」の起源です。そこから情報は戦争用語からインフォメーションと姿を変え、私達の生活に浸透していきました。そして今のIT社会という言葉に進化したのです。ではここで「情報って何だろう」と問われると難しくなります。この本では情報とは何かを歴史や技術や経済社会といった多様な面で簡単に説明し、今の我々の生活にどう影響を与えているかをテーマにしています。この本は「情報」の入門書として本当に良い本です。新入生の皆さんがこの本を読むことで、「情報」のことを深く考えるきっかけにしてほしいです。



生命科学部 生物工学科 2回生 山際 恭平さん

生命科学部

『自由をつくる 自在に生きる』

森 博嗣 著 (集英社新書) 2009年

自由とは何か、という議論は古今東西でなされてきたことでしょう。きっと、読者の皆さんも一度は同じ疑問に頭を悩ませたことがあるのではないのでしょうか？

この本は、著者である森博嗣さんが自身にとっての「自由」について述べたもので、主に考えることへの「自由」や「支配」について言及しています。これからさまざまなことを学ぶ中で、知らず知らずに受ける「支配」について把握することは、私たちに幅広い思慮を与えるはずで

著者は『すべてがFになる』、『スカイクロラ』などを執筆しており、随筆に慣れていない方でも読みやすく書かれています。一度読んでみれば、これから大学で学んでゆくことを広い視野で見ることができるでしょう。



薬学部 薬学科 2回生 中村 彰太さん

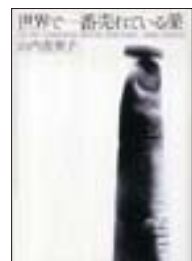
薬学部

『世界で一番売れている薬』

山内 喜美子 著 (小学館) 2007年

「現在世界で一番売れている薬は何でしょう？」

そう問われたら、「抗がん剤？」「抗インフルエンザ薬？」とよく聞く返答が返ってくるだろう。しかし、その答えは日本の遠藤章氏らによって開発されたスタチンと総称される高脂血症治療薬である。これは血中コレステロールを下げ、メタボとも関係が深い。私はこれをはじめて聞いたとき、生活習慣の改善以外にも脂質を効果的に分解する方法があるのだと知り感激した。しかし、こんなすばらしい薬ですら市場に出るまで何度も壁にぶつかった。この書籍は、スタチン誕生の裏話とその後の運命を描いたものである。この本をとって、あなたが服用する一粒一粒の薬の偉大さを実感してもらいたい。

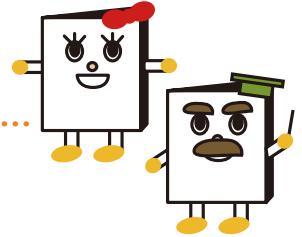


特集3 図書館 紹介

大学生になって、高校生までの「図書室」と「大学図書館」の違いに驚いたのではないのでしょうか。知れば知るほど奥が深く、何年経っても新しい魅力を発見する「大学図書館」ですが、今回はその中でも特に新入生の皆さんに知ってほしい「図書館の仕組み」を衣笠、びわこ・くさつキャンパス別に先輩が紹介してくれます。皆さん一人ひとりが大学生活において独自の「Library Style」を見つげられることを期待しています。

衣笠キャンパス

衣笠図書館特集



Q. 本は何の順に並んでいるの？

A. 図書館の本は請求記号によって並べられています。

請求番号 (①分類番号+②著者記号) とはその本が図書館のどこに置いてあるかを示す記号です。

レファレンスルーム
000番台～900番台
(辞書が請求番号順にならんでいます)

000番台 総記
300番台 社会科学
400番台 自然科学
500番台 技術
600番台 産業

* 主に産業社会学部・政策科学部・
法学部・国際関係学部関係の本

100番台 哲学
200番台 歴史
700番台 芸術
800番台 言語
900番台 文学

* 主に文学部・映像学部関係の本

▶ ラベルの見方

本の背表紙に貼られた請求記号ラベルを見て本を探します。

①分類記号
NDC8 (日本十進分類法第8版) にもとづいて、この本が何の分野に関するものかを示しています。

NDC 8
810.7
N 77
図・閲覧室

②著者記号
著者名の頭文字をとってつけられており、同じ分類記号でも著者記号のアルファベット・数字順に並べられています。

ここに館内利用と書かれている本は貸出できません。この本は貸出できます。

書庫に入れるようになりました

レファレンスカウンターの向こうにある書庫には、閲覧室の約3倍の本が所蔵されています。RUNNERSで検索した資料の「配架場所」に「書庫」とあったら、レファレンスカウンターで書庫入庫手続きをしてからほしい本を探しに行きましょう。

書庫入庫 手続きの方法



①学生証をレファレンスカウンターの職員に渡します。



②書庫入庫許可証を受け取って書庫へ入ります。

メディアセンター2階特集

(噴水前の図書館です)

Q.2階には何があるの？

A. 製本雑誌 (雑誌のバックナンバーをまとめたもの) や洋書などがあります。
また、グループ学習室や、静かな勉強スペースがあります。

▶グループ学習室の活用術

グループ学習室とは？



グループでの自学自習およびディスカッションなどを目的とした部屋です。



ホワイトボードも使えます！



モニターもあります！パソコンをつないで、みんなでプレゼンテーションの練習をすることができます。学習目的のDVDも見られるので、DVD視聴も可能です。

※飲食は禁止です！

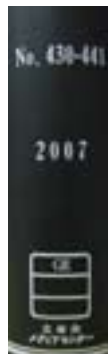
▶製本雑誌の探し方

バックナンバーの雑誌 (和・洋) が製本雑誌として保存してあります！レポートや研究に役立つこと間違いなしです！



これが製本雑誌です。

年代や、No.毎に製本されています。



タイトルのアルファベット順に並んでいます。

グループ学習室の利用方法

※3人以上で利用できます。



1階サービスカウンターにて学生証を渡します。



貸出表に記入します。



カギなどを受け取ります。

実は…

メディアライブラリー3階にもグループ学習室があります。借り方は、メディアセンターと同様です。

利用時間 (2010年1月現在)

サービスカウンターにて予約もできます。

■ 開講期 平日

8:40～10:35 115分	10:40～12:05 85分	12:10～13:00 50分	13:05～14:35 90分
14:40～16:15 95分	16:20～17:55 95分	18:00～19:35 95分	19:40～21:45 125分

■ 開講期 土曜・日曜

10:00～11:35 95分	11:40～13:15 95分	13:20～14:55 95分	15:00～16:45 105分
--------------------	--------------------	--------------------	---------------------

*定期試験期間および閉講期間など、上記時間と異なる場合があります。詳細については、サービスカウンターにてお尋ねください。

メディアライブラリー 4・5・6階特集

(アクロスウィング内の図書館です)

Q.4・5・6階には何があるの？

A. 研究図書や、社史、基礎文献など、専門的な図書があります。
レポートや論文の作成や、就職活動での企業分析などに役立ちます。
研究図書を利用する目的でつくられた静かな勉強スペースがあります。

▶ 代表的なコーナー



▶ 4・5・6階の 入庫手続の方法



①カウンターで学生証を渡します。



②入庫証をもらいます。

▶ 多目的閲覧室って？

図書を閲覧したり、自学自習できるスペースです！
静かに利用しましょう。



電源があり、パソコンも持ち
込めます。



静かな勉強スペースです。



実は…

3階エレベーター横にも多目的閲覧室があります！
4・6階よりも広いスペースです！

▶ 電動書架の使い方

4・5・6階は、写真のような書架に本が並んでいます。



①スイッチを押します。



②開くの待ちます。

③本を取り出します。

④使い終わったら必ず
電気を消しましょう。



※スイッチを押す前に…
他の利用者を挟まないよう注意してください！
※他の利用者のため、
書架内に長くどまらず、譲り合しましょう！

大学生のうちに 読んでおいてほしい本

vol.⑥ 沖 裕貴 先生 (教育開発推進機構 教授 / 機構長補佐)

今号はコレ!



あなたが幸せになれば、私も幸せになれる!

『子どもたちの貧困：日本の不公平を考える』

阿部 彩 著(岩波書店)2008年

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。晴れて大学生となり、大きな期待を胸に立命館大学の門をくぐられたことと思います。

水を差すわけではありませんが、皆さんがここにいるのは、ひとえに保護者のお陰です。いや、自分が頑張って受験勉強をしたから立命館大学に合格したのだと反論したい気持ちはわかりますが、その受験勉強をできたこと自体が保護者のお陰だという意味です。

2009年度版の厚生白書を見ると、子どもを大学に送り出す40歳代の世帯平均年収は701.7万円、50歳代では730.3万円となっています。ところが本学の2009年度新入生の世帯年収は平均で960万円を超えています。同じ世代の平均年収よりも230万円から260万円高いのが本学の特徴です。そしてこれは、東大、京大や早慶などの難関大学に共通して見られる傾向です。

一方、政権交代後初めて公表された日本の相対的貧困率は15.7% (国民生活基礎調査、2007) であり、OECD諸国の中でアメリカに次いで高いことがわかりました。相対的貧困率とは、その社会で「手取り」の中央値の半分以下の収入しかない世帯の比率を意味し、2007年度調査では114万円と規定されています。これは子どもを大学に行かせるどころか、医

者にかかったり、給食費を払ったりすることすら困難を来すレベルです。

何を言いたいのかといえば、皆さんが本学に来られたのも、ここで大学生活を送れるのも、ひとえにこれまで皆さんの保護者が教育費を工面し、安心して勉強に励める健康で文化的な家庭を作ってくれたお陰だということです。

子どもの学力と世帯年収とは比例関係にあることが判明しています。また、その格差は次の世代に引き継がれることも分かってきました。もちろん、本学には、苦学生や貧しい家庭の学生も多数在籍します。今言ったことはあくまでも統計に基づく議論ですが、格差社会の中で「偶然にも自分は恵まれていた」ということを、まず素直に感謝することから始めてほしいと思います。そしてその上で、もう一つ知ってほしいことがあります。それは、今の世の中、自分だけが勝組にいることは不可能だということです。いつ何時、描いていたキャリア・パスから転げ落ちるか分からないというだけでなく、周りの人たちが不幸であることは、児童虐待や少子化の拡大、学力低下などさまざまなことを通して社会全体の不安定化をもたらします。つまり、あなた一人が幸せでいつづけることなどできないのです。入学を機にぜひこの本を読んで、自分の来し方と今後の生き方を考えていただけると嬉しく思います。

院生プレゼンツ 「私の研究と図書館」

Presents 1

法学研究科 博士課程後期課程 1回生 金子 博 さん



現在、大学院にて共犯論、特に、共同性の規定を中心とした過失犯の共同正犯論について研究しています。具体的には、刑事責任を問題とする際、刑法上の「共同責任」はどのような場合に認められるべきなのか、について研究しています。そもそも大学院進学のかっけは、学部段階のとき、刑法、刑事訴訟法および刑事政策の学習を通じて、「犯罪結果はどのようにして行為者に帰責されるのか」という問題に関心を抱き、このテーマにつき研究を深めたいと思ったことでした。

学部時代のとき、主として、講義中に出された課題やゼミの発表の準備で大学図書館を利用していましたが、大学

図書館には、多くの貴重な文献が所蔵されているため、さまざまな文献を活用することができ、あるテーマに関する議論の変遷過程など、さまざまな情報を得ることができました。さらに、インターネット上の検索を通じて、どんな文献が出版されているのかなどを知ることができ、さまざまな角度から、関心のある問題を探究することができました。その結果、これまで考えもしなかった、さらなる問題意識が生じ、研究に一段と深みが増しました。このような図書館の利用価値は、大学院に進学しても基本的に同じです。その意味で、まさに大学図書館は教養を深める場であり、発見の宝庫でもあると思っています。

Presents 2

理工学研究科 博士課程前期課程 2回生 台蔵 憲 さん



私は大学院では月面地盤に用いるシミュレーションの開発を目指し研究を進めています。専攻は土木工学なので、同じ専攻の中でも少し変わった研究をしています。

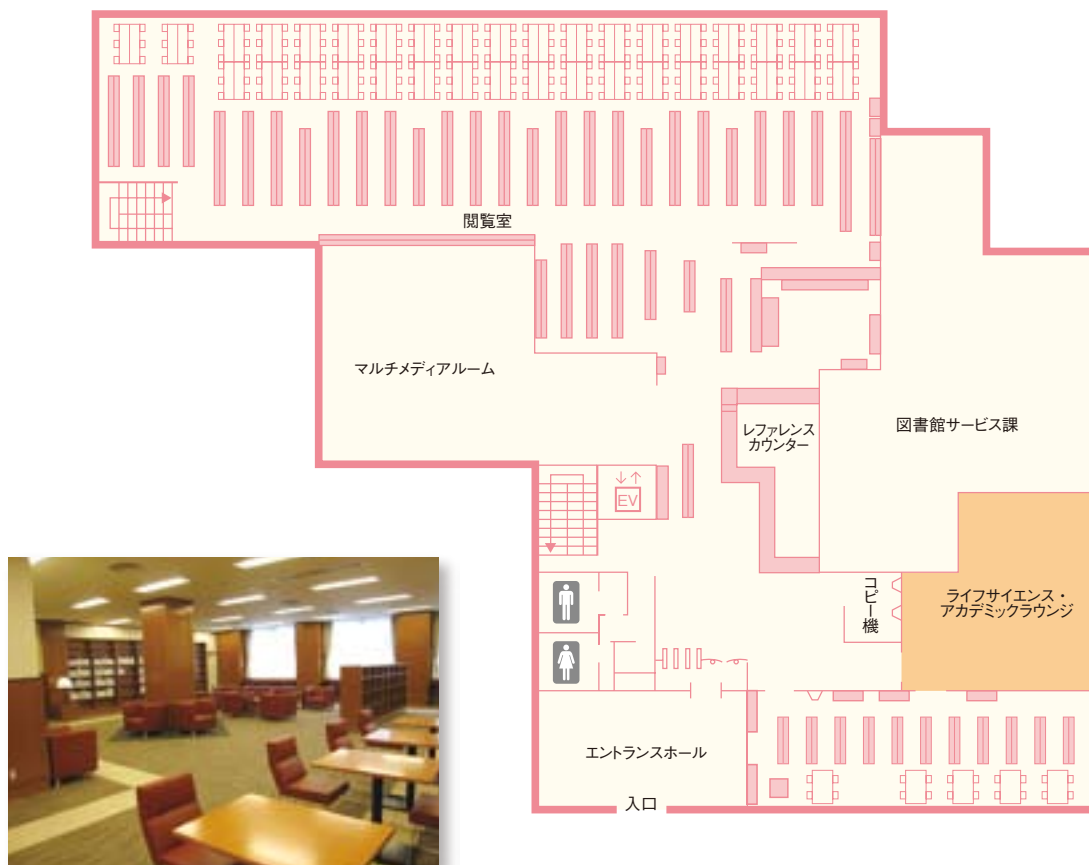
大学院へと進学しようと決めたのは、父親の影響が大きいです。私の父は機械系の技術者で、大学院を修了しています。そんな父親を理想の技術者と考えていたので、父親と同じように工学を専攻すると決めた高校生の頃から、大学院へ進学しようと決めていました。

私は大学院入試のための勉強をするときに、よく図書館の自習スペースを利用していました。立命館大学の大学院の入試では学内推薦と一般入試の2種類から選べるのですが、私は時期の遅い一般入試を受けたので、専門

試験の勉強が必要でした。一般入試は8月末に実施されるので、俗に言う”最後の夏休み”は勉強漬けにならざるをえません。同期がみんな夏休みを満喫しているのを傍目に見て黙々と勉強です。遊びに誘われても、旅行に誘われても断らないといけなかったので、下宿で勉強していると悔しくて辛いこともありました。そういう時には、気分を変えるために図書館に行くようにしていました。図書館の自習スペースへ行くと、そこにはいつも勉強している人がいて、そんな他の学生達に刺激を受けたり、なんとなく仲間意識を感じることができて、がんばることができました。大学院へと進学した今では、悔しい思いをしたことを含めてよい思い出です。

ライフサイエンス・アカデミックラウンジ開設

2010年1月12日、BKCメディアセンター1階に、ライフサイエンス・アカデミックラウンジがオープンしました。



設立の趣旨

立命館大学では2008年にライフサイエンス（生命科学）領域の教育・研究を行う生命科学部・薬学部を開設しました。ライフサイエンスは、生命現象の複雑かつ精緻なメカニズムを解明し、世の中に貢献していく領域であり、その研究成果により、医療・環境・食料・エネルギー・材料など、人類が直面する諸問題を解決していくことが期待されています。

生命科学部・薬学部では、「ライフサイエンス人材基金」を創設し、生命科学部・薬学部の学生だけでなく、広く全学の学生にも使っていただけるライフサイエンス・アカデミックラウンジを開設しました。

利用について

- 静かに読書することを目的としたスペースですので、私語は慎んでください。自習はご遠慮ください。
- 施設利用条件は、メディアセンターと同様で、ラウンジ内の資料は全て貸出可能です。
- 全学の学生が利用可能です。

『白川静文庫』の開設

本学名誉教授、文化勲章受賞者である白川静先生が生前に自宅に所蔵されていた学術書・原稿類などを御寄贈いただき、『白川静文庫』として2010年4月、開設することになりました。約19,000冊にも及ぶ膨大な蔵書は『白川静文庫目録』（2010年4月刊行）としてまとめられ、衣笠図書館にて所蔵されます。

白川名誉教授の学説は「白川文字学」と称され、内外の学会から高い評価を受けています。特に60年にも及ぶ漢字研究の成果は大冊3部の字書（『字統』、『字訓』、『字通』）となって結実し、漢字文化の豊かな世界を広く世に問うものとなっています。この意味で図書館が白川名誉教授の蔵書をコレクションとして保管・提供することは、今後の学術研究にも寄与するものとして期待されています。詳しくは衣笠図書館のレファレンスカウンターまでお問い合わせください。

スポーツ健康科学部の図書・雑誌の充実

スポーツ健康科学部開設に伴い、びわこ・くさつキャンパスのメディアライブラリーに、図書・雑誌が新たに加わりました。

和図書：4,000冊
洋図書：700冊
和雑誌：30タイトル
洋雑誌：20タイトル（すべてオンラインジャーナル）

和図書は2階閲覧室、洋図書は3階閲覧室、和雑誌は2階新着雑誌コーナーで利用できます。

オンラインジャーナルの洋雑誌は、図書館ホームページの「E-Journal」から利用してください。



スポーツ健康科学部 小沢 道紀 先生 お薦めの一冊

『教養としてのスポーツ科学』

早稲田大学スポーツ科学部 編（大修館書店）2003年

本書は、スポーツ科学という名前ですが、スポーツ健康科学の領域についてトピックとなるものを集めて、広く紹介している入門書です。トピックは合わせて25個あり、その一つのテーマに対して、長くて6ページでまとめられています。そのため、スポーツ健康科学の学びの領域の概要を知るのに、ちょうど良い本だといえます。また、テーマの終わりにある課題を自分で考えてみることで、学びたいことや学ぶのに必要な知識がはっきりとするでしょう。そしてさらには、参考図書が掲載されていますので、それを読んでみることで、より学びが深まっていくと思います。決して一つ一つの内容は深くはないですが、基礎知識がなくても楽しく読める本です。

